認知症に対するシチコリン注射

多くの認知症はせん妄を合併している。特にDLBの患者の多くが
慢性的にせん妄を抱えている。

意識の座である前頭葉が陽性に転ぶとせん妄となり陰性に転ぶと
無為、食事不能となると考えられる。
いずれにもシチコリン注射が有効である。
（有効率はシチコリン500で10%、シチコリン1000で30%以上となる。）

ただシチコリン単独の場合は1000mg以上でないと効果が出ない。
グルタチオンと併用する場合は250mgか500mgで良い。
グルタチオンは覚せい作用だけでなく、歩行改善作用・情緒安定作用がある。
静注する場合はシチコリン2A+生食4cc（計8cc）
筋注する場合は両肩に1Aづつ（2ccX2）

使用の一応の目安としては
①歩行障害に対してはグルタチオン㊟を
②幻覚・幻視・せん妄に対してはシチコリン㊟を使う。